

# 高大接続改革と これからの 教師の役割

教育再生実行会議の第四次提言、2014年12月の中央教育審議会答申、そして、15年1月の「高大接続改革実行プラン」の策定と、高大接続改革が着実に進行している。今号は、改革の背景やその目的・狙いを改めて押さえつつ、現場の教師や学校が今回の改革をどのように受け止め、どう変わろうとしているのかを、実践事例や教師の声を通して見ていく。

「2種類のテストの導入」や「複数回受験」には反対が多いが、入試改革の方向性には賛成が多い。

**Q.** あなたは、現在の改革で検討されている次のような取り組みについて、賛成ですか反対ですか。

■ 全国の高校の校長 1,228 名	賛成		反対 (%)
現在のセンター試験の廃止	19.6	<	41.6
基礎レベル・発展レベルの2種類の「達成度テスト」(※) 導入	27.2		41.4
「達成度テスト」の複数回受験	31.8		40.6
「達成度テスト (基礎レベル)」の推薦・AO入試への活用	46.9	>	26.1
「達成度テスト (発展レベル)」の結果の段階別表示 (1点刻みにならないような結果表示)	32.2		31.3
共通入試を基礎とした上で各大学が多面的な評価を加えて実施する入学者選抜	63.0	>	12.1
英語における資格試験 (TOEFL など) の活用	50.7	>	19.7

出典/ベネッセ教育総合研究所「高大接続に関する調査」(2014)

※基礎レベル・発展レベルの2種類の「達成度テスト」は、それぞれ高大接続改革実行プランで示された「高等学校基礎学力テスト (仮称)」、「大学入学希望者学力評価テスト (仮称)」を指す。

本号のテーマ  
高大接続改革

改革の背景

現状把握【P.6～7】

生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、  
グローバル化などの環境変化

これからの  
時代に  
必要な力

- ① 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）
- ② 知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果などを表現するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力
- ③ ②の基礎となる知識・技能

これらの力を、高校教育、大学教育、大学入学者選抜の改革による  
新しい仕組みによって育む

改革の要旨



文部科学大臣、  
教育再生担当大臣  
下村博文

文部科学大臣メッセージ  
【P.8～11】



大阪大  
未来戦略機構  
戦略企画室教授  
川嶋太津夫

大学人インタビュー  
【P.12～13】

高校教育

- ◎ 高大接続改革と歩調を合わせた学習指導要領の抜本的な見直し
- ◎ 課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習・指導方法であるアクティブ・ラーニングへの飛躍的充実
- ◎ 教育の質の確保・向上を図り、生徒の学習改善に役立てるための、新テスト「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の導入

大学教育

- ◎ 個々の授業科目などを超えた大学教育全体としてのカリキュラム・マネジメントの確立
- ◎ 主体性を持って多様な人々と協力して学ぶことの出来るアクティブ・ラーニングへの質的転換

大学入学者選抜

- ◎ 現行の大学入試センター試験を廃止し、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する新テスト「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入
- ◎ 各大学が個別に行う入学者選抜を、学力の3要素を踏まえた多面的な選抜方法を採用のものとし、多様な背景を持った学生の受け入れを促進
- ◎ 大学にとって改革のインセンティブとなるような財政措置などの支援の実施

これからの時代に必要な力を育むために求められる  
指導変革とは？ 教師の役割とは？

指導変革

群馬県・伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

実践事例①【P.14～17】

通常教科、合教科・科目、総合学習の三位一体で、真の学力を育む

東京都・私立かえつ有明中学・高校

実践事例②【P.18～21】

アクティブ・ラーニングと課題解決型学習で、真のリベラルアーツを追究

教師の  
役割

変革の時代、生徒と共に成長し続ける教師であるために

座談会【P.22～25】



宮城県利府高校  
長谷川弘和



東京都・私立  
かえつ有明  
中学・高校  
佐野和之



みやぎのしほ  
宮崎県立都城泉ヶ丘高校  
黒木 篤